

### 第3回塩竈市長期総合計画審議会の概要

日 時	令和2年2月12日(水) 18:30~20:15
場 所	塩竈市魚市場中央棟2階 大会議室
出席委員	柳井会長、草間委員、佐々木委員、渡辺委員、佐藤(晴)委員、丹野委員、 下館委員、土井(儀)委員、田中(京)委員、佐藤(京)委員、中村委員、 赤石委員、櫻井委員、佐藤(英)委員、江湖委員、土井(萬)委員、内海 委員、大山委員、田中(大)委員、佐藤(浩)委員、阿部委員 以上21 名 欠席委員4名
塩 竈 市	市長、教育長、各部長、危機監理監、政策調整監 (事務局) 市民総務部政策課
委託コンサルタント	(株)国際開発コンサルタンツ
司 会	政策調整監

#### 1. 開会

#### 2. 会長挨拶

今日は皆さんから色々な忌憚のないご意見を頂戴したい。そして普段から思っていることを自由に言っていただきたい。今日は佐藤市長も在席されておりますので、私たちは最後にしっかりとまとめて、市長にお届けしたいと思う。お互いのキャッチボールが、おそらくはお互いの信頼関係の始まりである。

そして、もう一つお願いしたいことがある。是非、近所の方が普段語っていることも言っていただきたい。今日はコーディネーターの先生方もいらっしゃいますが、是非その辺をご留意いただきたい。旨味のある会にしたいと思うので、よろしくお願いしたい。

#### 3. 意見交換

- ・各グループにおける意見交換
- ・各グループの発表

(グループA委員)

○住みよいまちに関して

塩竈市は県内で2番目に一人暮らしの高齢者が多いという現状から、高齢者が住みよいまちをどのように構築できるかという意見、それから、認知症のサポートも充実するような地域になってほしいという意見があった。また民泊や、都内から週末などに仕事をする方を誘致する等して、空き家の問題を解決できないかという意見があった。

○市立病院に関して

市立病院の在り方については、私個人の意見だが、病院自体が手術する病院である必要があるのかという観点も含めて考えるべきである。子育てや介護に特化するような病院の在り方があっていいのではないか。

○産業に関して

水産加工のレベルを上げることによって、もっと産業のレベルが上がり、競争力が出てくるのではないか。

また、産業がわかるような形で食育することによって、もっと塩竈の魅力を発信できるのではないか。例えば、塩竈では、ゼライス、カメイ、やまやと、県内を代表する企業が出ているような土地柄である。これは1つヒントになるのではないか。

○今後の在り方に関して

地域の中で経済が完結できるような形を考えていくべきではないか。外の教育機関、外からの知恵等のアイデアを取り入れた上で、地域内で経済が自立するような形が、今後の10年の在り方として話に出た。

(グループB委員)

「①塩竈の個性や大事にしたいもの」は、大きく分けて5つ上がった。歴史・食・景観・産業・人とのつながりである。

○歴史に関して

歴史は、奥州一宮といわれる1,200年以上続く神社があり、歴史を今後も大切にしていかなければならない。それと同時に、他の地域を参考にして、話し合っていく必要がある。

○食に関して

お酒、お寿司、練り物、魚があるので、そちらを大切にしていきたい。

○景観に関して

景観は、神社から見られる景色があり、塩竈神社周辺も大切にしていきたい。

○産業に関して

産業に関しては、水産の物流等が重要である。

○人のつながりに関して

人のつながりというのは、高齢者と若い世代との交流等、多世代間の交流を大切にしていかなければならない。

次に「②望ましい今後の塩竈の方向性」は、大きく分けて、住みやすいまち、子育てしやすいまち、未来づくりの3つがある。1番と2番は先ほどの話と重複するため、3番の未来づくりについてお話を。塩竈の海を活かしたマリンスポーツ等、ウォーターフロントを生かしたまちづくりが必要になってくるのではないか。また、県民の森があるので、浦戸を県民の島としてはどうか。

(グループC 委員)

塩竈の個性や一番大切にしたいものは、歴史文化、観光、産業水産、人、食文化である。

○歴史文化に関して

歴史文化としては、やはり鹽竈神社である。また、鹽竈神社を含め塩竈各地で見られる景観も大切である。神社には、祭り、塩づくり等があり、また塩竈市内には美術館や、勝画楼といった古い建造物が残されている。

○観光に関して

塩竈の魚を使った専門店や、塩竈の魚の家庭料理を食べられる場所があまりない。

○水産業に関して

水産業として、市場の水揚げの光景や、競りの様子等、そういう風景を大切にしていきたい。

○食文化に関して

塩竈には美味しいものが沢山あるが、県内でも朝食を食べていない人が一番多いという実態がある。それをチャンスに変えて、塩竈の特産物を含めて、食べる人が増えるようになればいい。

○その他

塩竈市民が歴史や方言等、あまり市民が意識していないことをまず意識するところから観光資源の発掘が始まるのではないか。

○交通の便に関して

また、望ましい今後の塩竈の方向性としては、まず、交通の便についての意見が上がっている。住宅地の交通の便について、検討していくべきである。

○行政に関して

市役所が分散されていて、使いづらいという意見がある。それを新設して集約していくのがいいのではないか。

○教育に関して

小学校の統廃合はやむを得ないが、もう少し、子育てがしやすく、産みたい人が産みやすいようになったらいいのではないか。包括センター等があるといいという意見が上がった。

○医療に関して

市立病院は必要かどうか。かかりつけ医だけで十分なのではないかという意見もあった。

(事務局) 各グループの先生方の方からコメントをいただきたい。

(グループC 佐々木委員) 掘り下げていくと、ソフトの部分に話が及んでくるというのが、一つ重要な点であると思う。市役所の話では、例えば一方では分散しているのも一つの個性なのではないか、それをどう繋ぐかが重要なのではないかという意見もある。

地域資源といっても、モノだけでなく思い出も地域資源になる。そういった意識とか、認識といった部分にまで、短時間で議論を進めることが出来た。今日は皆さん、本当にお疲れになったと思うが、これに懲りずに次回もこういう形で進めていくことが、この委員会にとって重要だと思う。

(グループ B 草間委員) 感想としては、市の総合計画と焦点がだいたい同じで、皆さんが思っている塩竈像が近いなという印象を受けた。佐々木委員がおっしゃったように、ソフトになると色々な切り口が出てくる。塩竈の魅力は、やはり陸奥国の一宮だろう。この陸奥国の1つの神社を持っているという、これを磨くとかなり良いのではないだろうか。今日お話を聞いたら、まだテコ入れする余地があるという印象を受けた。意見交換の中で景観というのが出てきたが、皆様の話を聞いていて、建物だけではなくて、その生業としている人も、市民も、景観となるという印象を受けた。そういう意味では塩竈には、昔ながらの水産業、あるいは神輿といった歴史文化、人の景観というのも話を聞きながら思った。行政の話では、つまり、ハードのワンストップだけでなく、ソフトのワンストップもある。土地がないので、そういうところでカバーしていくという視点もあるなと伺っていた。塩竈の魅力をたくさん聞かせていただき、住んでもいいかもしれない、また来たくなると思わせる会だった。

(グループ A 会長) 今日、私共のところでもかなり深いアイデアが出た。今日の最大のミッションは、アイデアをどう出すかということであり、そういった視点から議論を進めた。委員からは、一番冒頭に「身の丈に合った」、それから「歴史を大事にせよ」というご助言があった。おそらく、塩竈の土台には、こういった歴史や文化というのが否定しようのない事実なのだろう。歴史的な塩づくり、信仰、水産業、それに関わる水産加工業といった、立派な土台は、他の地域と区別するユニークな特徴である。だからこれを否定して始まるということはありません。その上で身の丈は何かというところで、皆さんのご意見をお聞かせいただいたところ、ある委員からすごく面白い話が出た。コンパクトシティとか、コンパクトタウンというのはよく聞いていたが、高齢者のコンパクトタウン、お年寄りにとって、生活のしやすいまちづくりである。これはバリアフリーであったり、歩きやすさであったりするわけだから、遊歩道や手摺りの増設、休憩場所や、居場所づくり等、どんどん展開していく。そういうイノベーションを起こすようなアイデアも出た。他の委員からは、今までの病院のやり方ではなく、これからは介護や子育てができるような、そういう病院をつくりましょうというイノベーションがあり、また雨の日に子供が遊べる場所がほしいというアイデアも出ている。

つまり、我々が総合政策を考えていくときに、そういった1個1個の、小さなつぶやきが必ず目に見えるような形になっていく、そして、みんなにとって、良かったねとなるような、相槌の打てるような関係性が大切である。そういった意味で、まちづくりというのは、身の丈から始まり、繋がっていくというのが大事なのである。

例えば、こちらのグループでお話をさせていただいたが、学校給食で地元の食材を使ってくれるだけで雇用が数名生まれる。さらに会社の社食として、地元の食材を使ってくれば、さらに数名の雇用が生まれるはずである。そういったことを積み重ねていくと、この地域は強い経済を作ることができ、それが魅力となって、新しいものを呼び込めるようになる。だから、順番としては私たち自身が自分の陣地を固めていくことから始めなければならない。今日初めて名刺交換するのではなく、既に顔を知っている関係性こそがこの地域の強みだと思う。そういったところから、総合計画を組み立てていけば、自ずと答えは出てくるのではないかと。そして、その延長上に色々なイノベーションが実現していくのだと思う。卒業していく人を「行くな」と足を踏みつけるのではなく、逆に「ちょっと行ってこい」と言う。その代わり5年後は物凄くフックを利かせる。つまり、そのころ塩竈市が変わっていれば、「帰りたい」という人が増えてくると思うだろう。塩竈の人たちは魚釣りが上手なので、こういうまちづくりというのが塩竈らしいのではないだろうか。もっともっと頑張っていこう。

(事務局) 大変貴重なご意見をいただき、誠に感謝申し上げます。今回のご意見をはじめ、市民アンケート、企業アンケートの調査の結果、あるいは前回第5次長期総合計画の総括を行った結果等、それから様々なご意見をいただいている。それらを踏まえて、これから本市の本格的な計画の策定作業に入っていきたい。

(会長) 市長に一言お話をお聞きしたいと思うが、いかがだろうか。

#### 4. 市長より

(市長) 本日は、皆様方に置かれましては、お忙しい中、貴重なご意見を賜りまして、心から感謝を申し上げます。

先ほど身の丈という言葉がございました。最近、私がよく、色んなところでお話しているのは「身の丈にあった塩竈をどうつくっていくか」ということをお話させていただいております。その時に是非、皆様方をお願いしたいのは、“現状認識”、このことをしっかりと知っていただきたいと思っております。今の市立病院の状況、市役所の庁舎の形、学校の問題、そういったことがデータとして、皆様方にお示しをさせていただく機会がなかったらと思うております。4月以降になると思いますが、市政だよりも水道料金の話や、学校の問題、市立病院の今の状況、100円バスの現状についてデータとして、分かりやすい数字で出させていただきます。こういったことを市民の皆様方に知っていただくことが、まず重要だろうと思っております。その上で身の丈というものを語っていかないと、私共が思う身の丈と市民の皆様が思う身の丈のギャップがありすぎたのでは、これはなかなか次に進むのは難しいだろうと思っております。長期総合計画の名の通り、“これから先の塩竈をどうしていくか”、ここにいらしていただいている皆様方にその想いを託していただけるような計画にするためにも、しっかりと私共が、現状というものを皆様方に知っていただく努力をし続けさせていただきます。

たいと思います。

その上で、皆様方が思い描いていただける、これからの塩竈のお考えを今、出していただいた議論のように、どんどん、私共にぶつけていただきたいと思います。しかしながら、地域は生きておりますので、皆様方に計画を考えていただく間に、変化というものは必ず起こってまいります。その変化にも是非、柔軟に対応していただきますように、心からお願いを申し上げさせていただきたいと思っております。

皆様方が地域を作っていきます。私共、そして市役所の職員は、“皆様方のサポートにまわる”、これが、私は一番良いのだろうと思っております。皆様方が主役の、本来の意味での塩竈市を作っていただくために、貴重なお時間を割いていただいてまで、このような機会を作っていただいております。これからも私共塩竈市に、皆様方の厳しいご指導賜りますように、心からお願いをさせていただいて、恐縮でございますが、挨拶に代えさせていただきます。本当に今日はありがとうございました。

## 5. 閉会

(事務局) 我々も真摯に受け止めてご意見を反映していきたいと思う。また次回の審議会は3月に予定しておりますが、それまでに皆様の方に、計画の構成や形、計画の期間等について、アンケートを出させていただきたいと考えている。皆様のご意見をしっかりと聞きながら、策定作業を進めてまいりたいので、是非ご協力をお願いしたい。